

Effects of *Sekentei* on seeking psychological help in Japan:
The interaction effects of moderating factors
based on the theory of reasoned action

世間体意識がメンタルヘルス専門機関に対する
援助要請に与える影響

合理的行動理論に基づいた調整変数の検討

前川由未子 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科
金井篤子 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

我が国では、メンタルヘルスに問題を抱える多くの人が精神科や心療内科といった専門機関を利用していないといわれている。こうした現象の背景として、恥を恐れ、世間体を気にするという傾向があると考えられる。本研究では、世間体を気にする程度（以下、「世間体意識」）が、専門機関に対する援助要請意図に与える影響を明らかにし、それを調整する要因について検討を行った。調整要因としては合理的行動理論に基づき、「主観的規範」（相談することに対する他者の規範についての認識）と、「カウンセリングイメージ」を取り上げた。大学生 273 人に質問紙調査を行った結果、世間体意識は援助要請意図に負の影響を与えることが示された。さらに分散分析の結果、世間体意識×カウンセリングイメージ×友人の主観的規範、世間体意識×家族の主観的規範×友人の主観的規範の交互作用が有意であった。この結果より、世間体意識は援助要請意図を抑制すること、そしてその効果はカウンセリングイメージと家族・友人の主観的規範により調整されることが明らかになった。

キーワード: 援助要請意図, 世間体, カウンセリングイメージ, 主観的規範